

佐賀オスプレイ基地建設に反対する非暴力直接行動について

豊島 耕一 TOYOSHIMA Koichi (元佐賀大学・理工)

1 「直接行動」の一般のネガティブ・イメージ（市民運動圏も含む）

短絡的、自己満足的、暴力的、極左的、逮捕、長期の勾留、違法行為

2 必要性、種類と、民主主義制度と市民運動の中での位置付け

ジーン・シャープの“非暴力行動198の方法”¹のうちの36が該当

民主主義制度の下でも「独裁」は容易に起こりうる。復元的手段として不可欠

3 日本での歴史

江戸時代を通じて3,200件の百姓一揆²、現代でも60-70年代にはよく見られた。一揆の研究者が絶滅？「日本人はおとなしい」という言説は文化的記憶喪失か？

4 理論・文献

上記シャープの本では『市民力による防衛』、予稿脚注にも挙げたM.ランドル³およびアンジー・ゼルター⁴の著作⁴

¹ ジーン・シャープ「独裁体制から民主主義へ」、2012年

² 古川清行「スーパー日本史」、講談社、1991年、p.439.

³ M・ランドル、「市民的抵抗」、新教出版社、2003年

⁴ アンジー・ゼルター、「非暴力直接行動が世界を変える」、南方新社、2024年

5 佐賀オスプレイ基地建設阻止行動での実践

5.1 経過

1990年3月:「佐賀空港建設に関する公害防止協定」（佐賀県と8漁協）の覚書付属資料

の中で「自衛隊との共用はしない」と明記

1998年7月:佐賀空港開港

2014年7月:防衛省が佐賀県に対して佐賀空港への自衛隊オスプレイ配備等を要請

2015年1月:佐賀県知事に山口祥義(よしのり)氏

2018年8月:山口知事が配備計画を受け入れ

11月:有明海漁協が公害防止協定の見直しを受け入れ

2023年2月:佐賀市長が防衛省からの要請を受け入れる

5月:地権者でつくる南川^{かわそえ}副管理運営協議会が臨時総会を開催し、土地売却を決定

6月:防衛省が佐賀駐屯地建設工事を着工、

住民・市民が自発的な阻止直接行動

8月:地権者4人がオスプレイ裁判・仮処分を申し立て

12月:排水対策施設工事のため県が防衛省に県有地を無償貸与

2024年1月:排水対策施設工事が本格化、県有地の土砂を無償提供

2月:県民72人が佐賀県に対し、県有地・土砂の無償提供の問題を住民監査請求

3月:オスプレイ裁判・仮処分が却下、地権者4人がオスプレイ裁判本訴を提訴

4月:住民監査請求が棄却

5月:県民40人が知事に対し、県有地・土砂無償提供の問題で住民訴訟を提訴

7月:245人の原告が市民原告訴訟を提訴、地権者4人の裁判と併合

オスプレイ配備とは？

防衛省の説明パンフから

佐賀空港と関連施設の位置関係



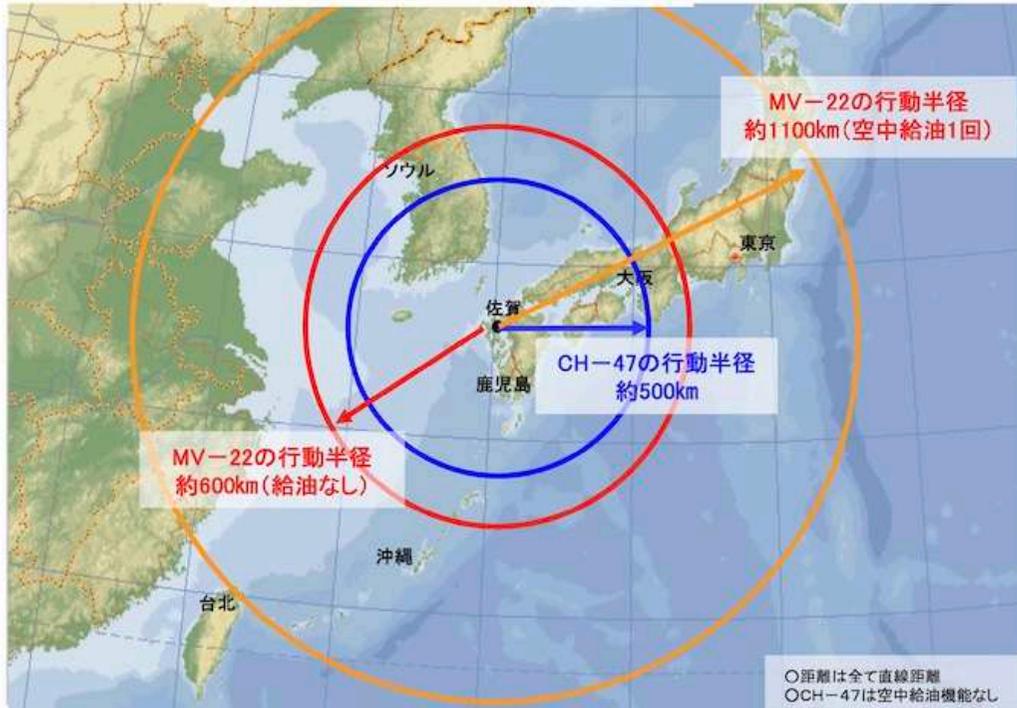
島嶼防衛のイメージ



8

6

MV-22オスプレイと陸自CH-47JAの行動半径



3



北方領土「戦争で取り返すの賛成か」議員発言に波紋 | テレ朝news
 北方四島の国後島へのビザなし交流の訪問団に参加していた日本維新の会の丸山穂高衆議院議員が「戦争で島を取り返す」という趣旨の発言を...
news.tv-asahi.co.jp

地権者の提訴も無視して工事は続行される。工事現場に向かうダンプ。2024年5月17日17時



右：田んぼだった所が軍事基地に



左：「明日の戦争を運ぶ」

(加工画像)

これを目撃すれば、そしてその意味を洞察できるならば、「体を張ってでも止めた」と思うのが自然では？

訴訟が進行する一方で、現場の抗議・阻止行動は「封印」された。

5.2 直接行動の再開と展開

2024/1/9 有志で、佐賀県公安委員会に対し県警が違法な工事を取り締まるよう「苦情申し出」を実施（警察法79条1項）

1/19 同有志、阻止行動予告の記者会見。地元紙が報道

1/25 行動開始に際して佐賀県警本部長に手紙を届ける

1/27 工事ゲートでのダンプ阻止行動開始-「私人による法の執行」。同日、「オスプレイストップ！9条実施アクション佐賀」結成

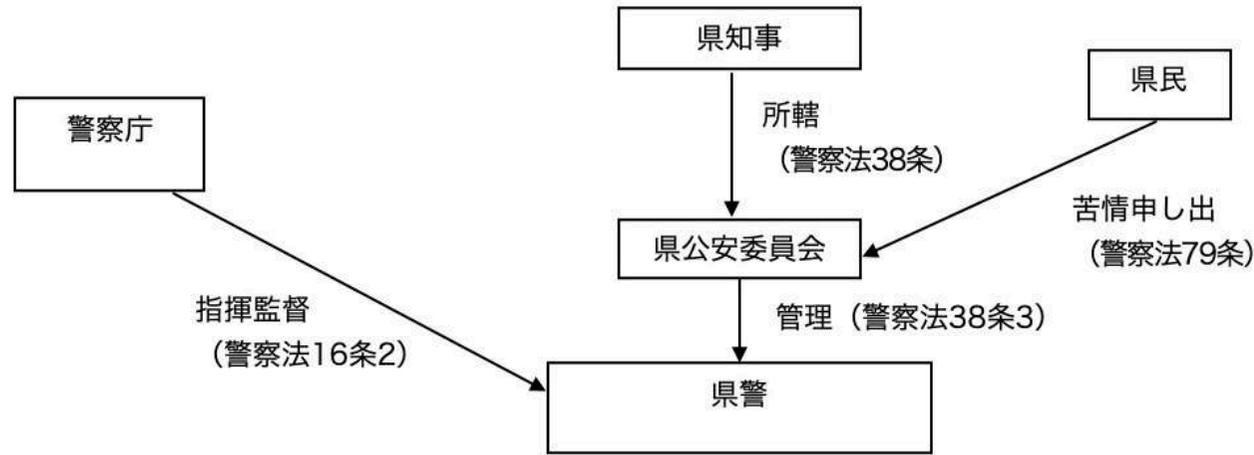
以後11月まで、月1～2回の阻止行動を実施



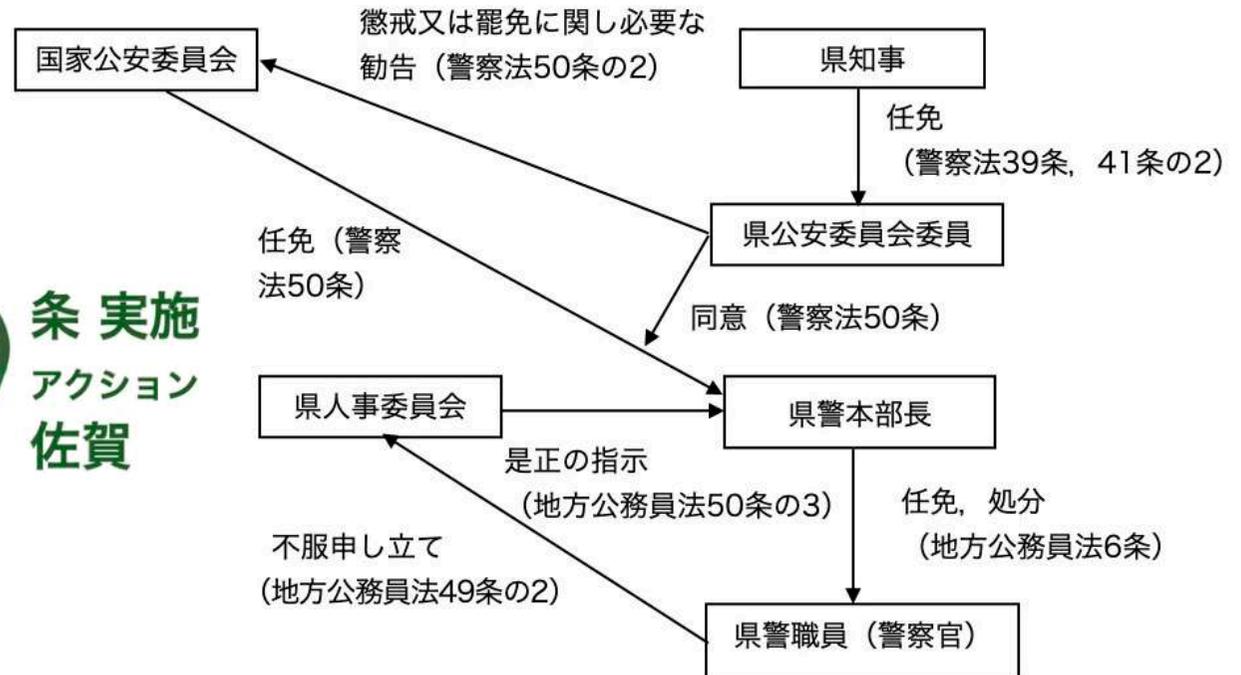
国
支配関係

県

県民



任免・処分



昨年6月の自然発生的な阻止行動



なり、九州防衛局からの通報で県警の機動隊などが駆けつけたという。工事車両が長い列を作る中、車両出入口でのぼりや横断幕を手にした市民ら

佐賀新聞, 1/20

阻止行動予告の記者会見を
報じる今年1月の佐賀新聞

工事阻止へ27日抗議行動

市民有志 現場入り口に座り込み

佐賀空港(佐賀市川副町)への自衛隊輸送機オスプレイ配備計画に反対する市民有志が19日、着工から7カ



駐屯地工事の抗議活動について会見する豊島耕一氏(岸)

月たった駐屯地工事を阻止する抗議行動を27日朝に行うと発表した。

呼びかけ人の佐賀大名菅教授の豊島耕一氏ら6人が同日午前8時50分ごろに空港駐屯地に集まり、実施する。工事現場の入り口に座り込むなどして、車両の出入りを阻止する計画。

佐賀市で19日に会見した豊島氏は、鹿兒島・屋久島沖での米軍オスプレイ墜落事故と飛行の全面停止で、

「オスプレイは安全」とした防衛省の説明が虚偽だったと指摘。工事予定地の地権者全員から同意を得ておらず、さらに戦争放棄をうたった憲法9条などに関する違法性を主張する。

豊島氏は「抗議行動が道路交通法に抵触する可能性があるが、それよりも重大な違法行為を制止するためにはやむを得ず実施する。まだ止められることを、逮捕されるのも辞さない覚悟を持って訴えたい」と協力と呼びかけた。

(大田浩司)

上：工事開始当日の昨年6月12日、田園風景が広がっている。

右：今年8月19日の阻止行動。隊舎の骨組みが見える。



8月19日の様子



10月28日、「民衆の歌」を歌う



佐賀県公安委員会に11月13日に提出した二度目の「苦情申し出」から引用:

・・周辺住民の自治会長が「シェルター」を建設容認の条件としたように、軍事緊張を一層高めることに寄与しています。今一度、**警察法三十八条が貴委員会の「任務」として定める「個人の権利と自由を保護」**を再認識していただくことを要望します。現状は、個人の憲法的権利である「平和的生存権」がますます危うくなりつつある状況であり、貴委員会の責任は重大です。・・・

佐賀空港へのオスプレイ配備ストップ!

駐屯地建設工事ゲート前

座り込み抗議行動・集会



11月27日(水) 7:30-15:00
12月14日(土) 14:00-16:00
12月20日(金) 時間未定

部分参加も歓迎
いずれも15分前に佐賀空港
第4駐車場集合(無料)

抗議行動を伝えるラジオ
テレビのニュース動画
1/27 2/24 4/13



座り込み・牛歩で工事を止めよう! 遅らせよう! あなたも

昨年11月に屋久島沖で墜落事故を起こしたオスプレイは欠陥機です。地権者全員の同意を得ずに行っている駐屯地建設工事は違法です。佐賀空港へのオスプレイ配備をストップさせるため、「駐屯地建設工事ゲート前座り込み抗議行動」にぜひご参加ください。短時間の参加も大歓迎!

※初めて座り込み抗議行動に参加される方には、当日「非暴力と安全」のための確認を行います。



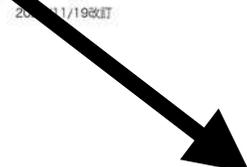
著名人からの応援のメッセージ (到着順)

専用ブログ <https://stopsaga9zyo>

斎藤幸平さん：日本の底が抜けてしまわず、民主主義が守られているのは、みなさんのように地域の生活や、平和、環境を守るうと行動する市民がいるからです。本当に尊敬します。頑張ってください! 私も連帯します。(経済思想家。NHKなど出演多数)

大久保賢一さん：オスプレイは戦争の道具です。しかも、その欠陥は明らかです。それを配備することは住民を危険にさらすということです。その配備を阻止するための創意ある運動に敬意を表します。(大久保さん、佐賀オスプレイ基地に反対する皆さんの重要な闘いに賛同し、愛とパワーを送ります。基地の建設と使用を阻止しようとする皆さんの行動は、訴訟の活動と組み合わせ、反民主主義的で、環境汚染の、そして気候破壊的な影響から全世界を守る闘いの両輪となるでしょう。皆さんの行動はかけがえがなく、創造的です。私は皆さんたちを全面的に支持します。愛と平和を。)

主催：オスプレイストップ! 9条実施アクション佐賀
代表：豊島耕一 佐賀大学名誉教授 toyosima@ta2.so-net.ne.jp



著名人からの応援のメッセージ (到着順)

斎藤幸平さん：日本の底が抜けてしまわず、民主主義が守られているのは、みなさんのように地域の生活や、平和、環境を守る



うと行動する市民がいるからです。本当に尊敬します。頑張ってください! 私も連帯します。(経済思想家。NHKなど出演多数)

大久保賢一さん：オスプレイは戦争の道具です。しかも、その欠陥は明らかです。それを配備することは住民を危険にさらすということです。その配備を阻止

するための創意ある運動に敬意を表します。(大久保さんは日本反核法律家協会の会長です。人気朝ドラ「虎に翼」に資料提供されています。)



馬奈木昭雄さん：有明海は平和な宝の海です。それを欠陥戦争武器のオスプレイが侵害するなどというい許されません。みなさんの創意にみちた座り込み抗議行動が粘り強く続けられるよう連帯し



専用ブログ <https://stopsaga9zyo.blogspot.com>

て頑張りましょう。(久留米第一法律事務所・弁護士)

アンジー・ゼルターさん 佐賀オスプレイ基地に反対する皆さんの重要な闘いに愛とパワーを送ります。基地の建設と使用を阻止しようとする皆さんの行動は、訴訟の活動と組み合わせ、反民主主義的で、環境汚染の、そして気候破壊的な影響から全世界を守る闘いの両輪となるでしょう。皆さんの行動はかけがえがなく、創造的です。私は皆さんたちを全面的に支持



します。愛と平和を。(平和運動家-英国)

具志堅隆松さん：沖縄で戦没者の遺骨収集をやって



いる者です。今、私は遺骨収集活動から戦争をさせない運動に移りつつあります。今の日本を冷静に見れば、日本は確実に戦争に向かっていきます。沖縄だけでなく日本全体がです。私達は先の戦争を止めることも終らすことも出来ませんでした。しかし、今度は絶対止めます。国が決めたことに従わされるのではなく、私達が国が進む方向を決めることが出来るのです。私達が主権者です。佐賀の運動を支持します。(沖縄県那覇市)

(チラシの下半分の著名人の賛同メッセージ)

5.3 直接行動の原則

非暴力と「説明責任」。参加者に「非暴力と安全のための誓約書」への署名を求める。

5.4 直接行動の効果・意義

(a) 例えわずかとはいえ、工事を遅らせるなど、実際の効果がある。

(b) この現実の効果は参加者に手応えと満足感をもたらし、参加者のエンパワースメント（自信）につながる。

(c) 参加者全員が当事者に、「主人公」になれる。

(d) リスクを取った覚悟ある行動というのは、一般市民に対して言葉以上の「説得力」を持つ。またメディア露出が得られやすい。

(行為によるプロパガンダ。前出のM・ランドル、p.134)

非暴力と安全のための誓約書

私は、「オスプレイストップ！9条実施アクション佐賀」(注)の行動に参加するに際し、次のことを誓約します。

- 1 私は、誰に対しても身体的暴力を行使したり、暴言を発することを致しません。
- 2 私は、このグループの行動に関するすべての取り決めに尊重します。
- 3 私は、常に安全に行動し、私を含めたすべての生命・身体に危害を加えることのないよう責任を持って行動します。

署名：

日付：

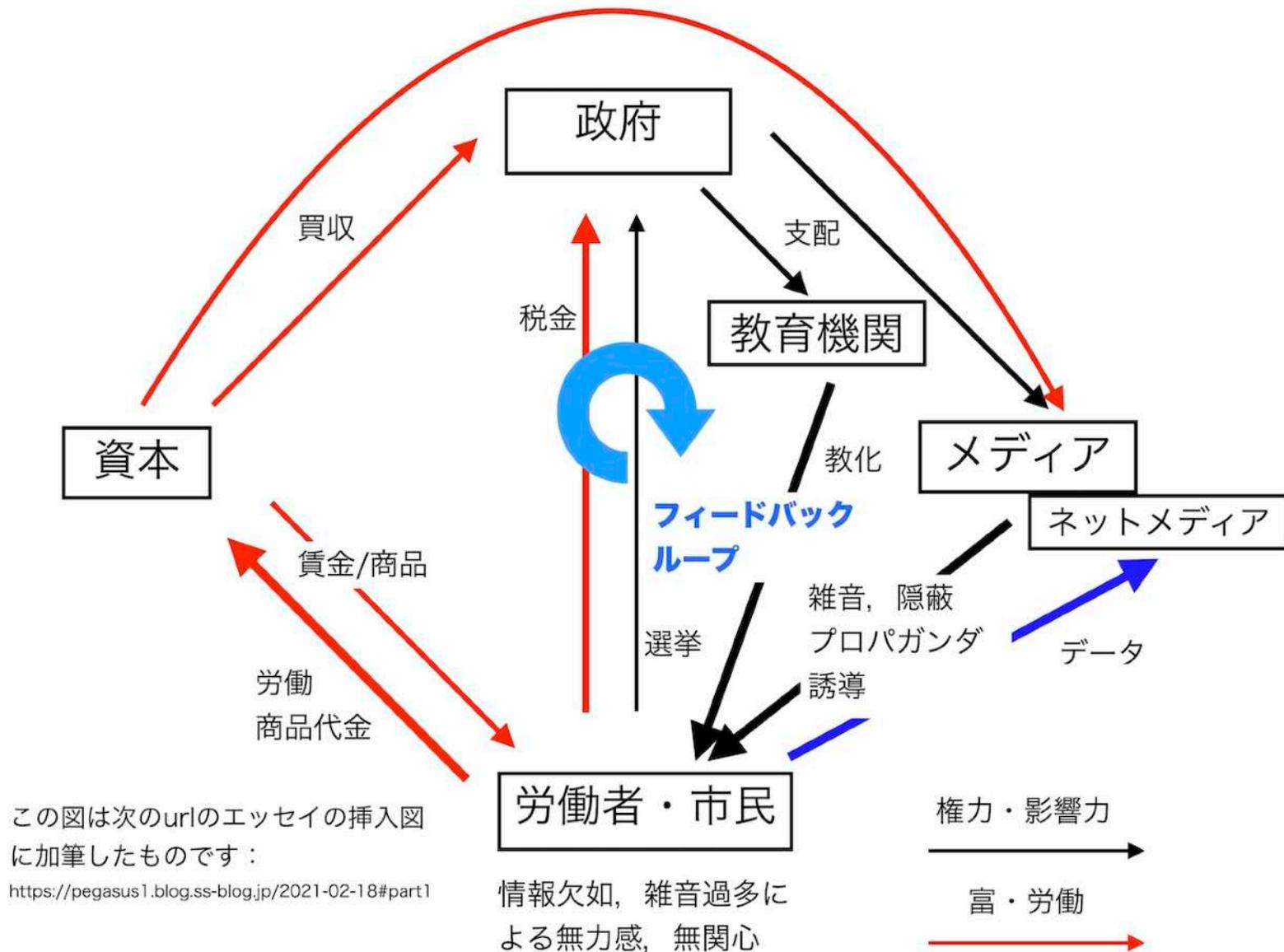
住所、氏名（楷書ではっきりと）：

(注)「オスプレイストップ！9条実施アクション佐賀」とは当面、佐賀空港へのオスプレイ配備に関する作業を出来るだけ阻止するための、非暴力の行動グループを指します。

5.5 直接行動の必要性について⁵

資本・メディア・政府権力の支配のトライアングル（右の図）からの脱却し、民主主義再生に不可欠。

社会の重要問題をメディアに「強制的に」取り上げさせることで可視化させる効果。



この図は次のurlのエッセイの挿入図に加筆したものです：
<https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2021-02-18#part1>

情報欠如, 雑音過多による無力感, 無関心

佐賀オスプレイ基地阻止行動に関しては、ダンプによる土砂搬入はすでに完了し、日中の車両の出入りも少ない。工事ゲート封鎖の実効性が低下し、手詰まり感がある。新たな方策が必要か。

⁵ 豊島耕一「『ガラパゴス』状態の日本のデモが暴政継続を許す」、『反戦情報』2021年2月15日号～同4月15日号参照

腐敗した司法とメディアの下では、市民が逮捕を恐れる限り権力は市民を恐れない。その恐れから市民が解放されて初めて、権力は市民を恐れ、民主主義が始まる。そこから、いま恐ろしいスピードで進む「新しい戦前」を押しとどめる力が生まれるのではないか。

***数日前の韓国での事件では、民主主義のために命のリスクも厭わない韓国市民と、逮捕のリスクにさえ怯む日本の市民運動との対比を見せられたのではないのでしょうか。**

6 憲法9条をめぐる

齋藤文男・九大名誉教授（故人）の久留米での憲法講演（2010年5月3日）

護憲派は”条文改憲”だけに目を奪われていないかと警告。

「六法全書の中に”**9条のインクの染み**”が残っていればいいのか？」

→録音 <https://dai.ly/x8yr5ik?start=1800>

録音（スライド付き）は次から視聴可能。（ジャンプ可能な目次付き）

<https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2024-05-20>

「9条を護る」 から、私人（市民）による法の執行としての「9条実施」、

腐敗した司法とメディアの下では、市民が逮捕を恐れる限り権力は市民を恐れない。その恐れから市民が解放されて初めて、権力は市民を恐れ、民主主義が始まる。そこから、いま恐ろしいスピードで進む「新しい戦前」を押しとどめる力が生まれるのではないか。

＊数日前の韓国での事件では、民主主義のために命のリスクも厭わない韓国市民と、逮捕のリスクにさえ怯む日本の市民運動との対比を見せられたのではないのでしょうか。

6 憲法9条をめぐる

斎藤文男・九大名誉教授（故人）の久留米での憲法講演（2010年5月3日）

護憲派は”条文改憲”だけに目を奪われていないかと警告。

「六法全書の中に”**9条のインクの染み**”が残っていればいいのか？」

→録音 <https://dai.ly/x8yr5ik?start=1800>

録音（スライド付き）は次から視聴可能。（ジャンプ可能な目次付き）

<https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2024-05-20>

「9条を護る」 から、私人（市民）による法の執行としての「9条実施」、

さらに **九条の逆襲** へ

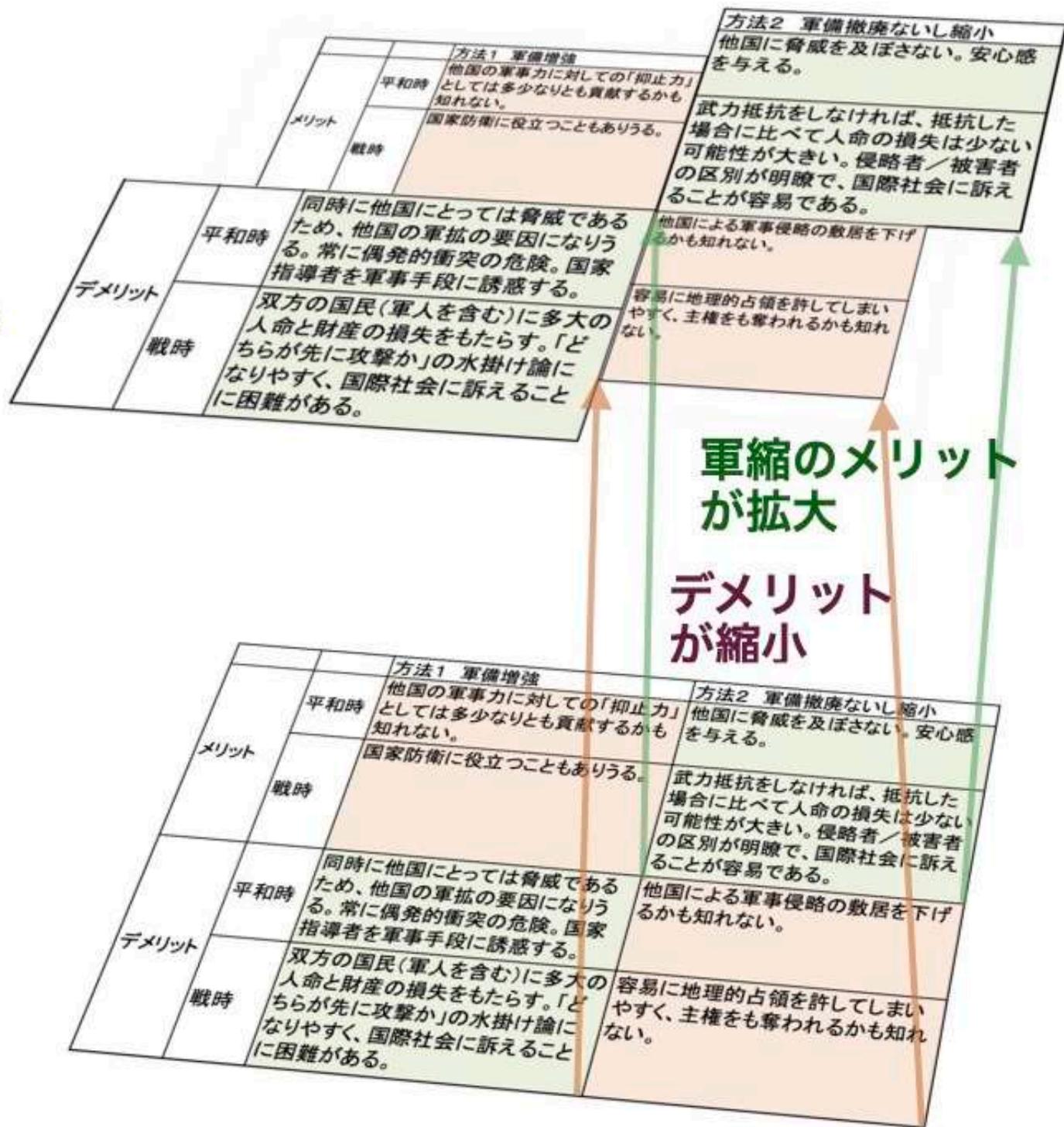
B 理論面から

- 1) 一国が他国から侵略される確率と、その逆は、「場合の数の確率」としては等しい¹。
- 2) 軍備による／軍備によらない安全保障との「公平な比較」（次の図）と、その時間発展の考察（次ページの図）

		方法1 軍備増強	方法2 軍備撤廃ないし縮小
メリット	平和時	他国の軍事力に対する「抑止力」としては多少なりとも貢献するかも知れない。	他国に脅威を及ぼさない。安心感を与える。
	戦時	国家防衛に役立つこともありうる。	武力抵抗をしなければ、抵抗した場合に比べて人命の損失は少ない可能性が大きい。侵略者／被害者の区別が明瞭で、国際社会に訴えることが容易である。
デメリット	平和時	同時に他国にとっては脅威であるため、他国の軍拡の要因になりうる。常に偶発的衝突の危険。国家指導者を軍事手段に誘惑する。	他国による軍事侵略の敷居を下げるかも知れない。
	戦時	双方の国民(軍人を含む)に多大の人命と財産の損失をもたらす。「どちらが先に攻撃か」の水掛け論になりやすく、国際社会に訴えることに困難がある。	容易に地理的占領を許してしまいやすく、主権をも奪われるかも知れない。

¹ 「日本の科学者」2005年1月号の「読者の広場」, <http://ad9.org/pegasus/docs/nagasaki/symmetry-kant.pdf>

時間発展（軍縮が進むケース）



- 3) 軍備撤廃のデメリットを補う、ジーン・シャープの「市民力による防衛」
- 4) ジュネーブ諸条約追加議定書に基づく無防備地域宣言
- 5) 文民統制下の軍は、政治権力が好戦化した時にスイッチを切る「安全装置」はない。常に平和主義の政府が維持されると考えるのは、あまりにも空想的